

5 ^{しみずけもんじよ} 清水家文書 222点 [有形文化財（古文書）]

[所在地] 奈良市

[所有者] 個人

[時代] 室町時代後期～明治時代

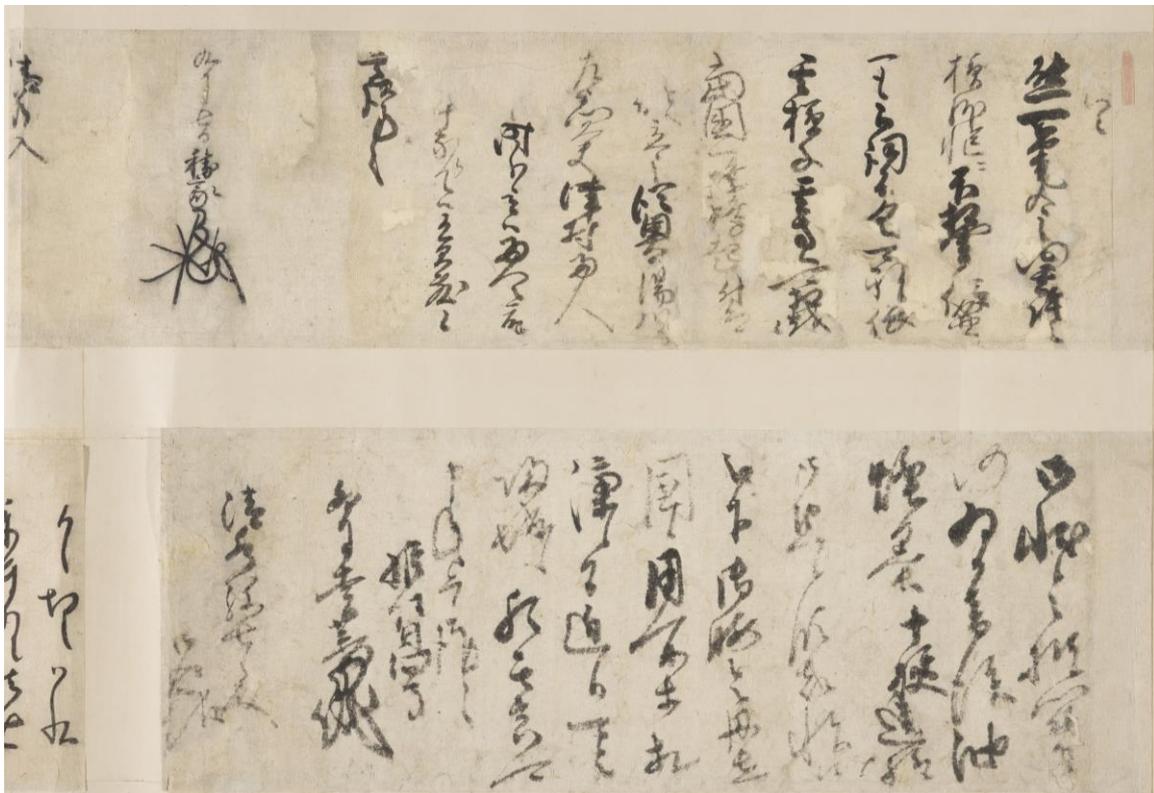
[概要]

本品は、江戸時代に奈良町の代表者である惣年寄^{そうどしより}を世襲した清水家に伝来した古文書群である。室町時代後期から明治時代にかけて222点から構成される。

本品の特徴を成すのは、戦国時代から織田・豊臣期にかけての文書である。清水家はもと南山城^{ほうその}祝園に拠点を置く地侍であり、織田信長に仕えた後、豊臣期より奈良に定着した。信長との関係から、柴田勝家・佐久間信盛・明智光秀等の織田家臣団からの書状がまとまって残されているほか、豊臣期には秀吉の朝鮮出兵に関わる内容を含むものも認められ、戦国・織豊期の政治史を知るうえで有用である。

江戸時代の正保^{しょうほう}2年（1645）以降、奈良町惣年寄を世襲するようになり、由緒書^{ゆいしょがき}や歴代の法事関係文書など清水家の来歴を示す史料が多く残されるほか、奈良奉行に関するものや、奈良晒^{ならざらし}関係のもの、連歌・和算関係など多彩な内容の史料が含まれており、清水家の行政・産業・文化にわたる幅広い活動を知ることができる。

本品は、現在確認できるほぼ唯一の奈良町惣年寄家伝来史料として稀少なものであり、奈良町の歴史を知るための地域史料として極めて高い価値を持つものと評価できる。



柴田勝家書状（上）、明智光秀書状（下）

画像提供：奈良文化財研究所